

海の向こうでは荘厳に国葬。こちらでは、反対する人々が多数を占める「働き方改革」首謀者の「コクソウ」になんと「労働者の代表」が出席すると聞く・・・  
9月14日のゼミは、芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅱ部4章「レギュレーション理論」と国家による調整の諸制度」を川口さんの報告で行いました。レギュレーション・アプローチ、資本主義を社会の側から調整、あるいは制度の概念で展開。1920年代までの外延的蓄積体制から内包的蓄積体制＝フォーディズム的蓄積体制へ大幅な生産性上昇、70年代に低成長へ。レギュレーション理論を応用し社会的調整制度で社会主義経済を改革と解体、そして体制転換へ。計画と管理のヒエラルキーの下で、市場経済導入による経済改革、中央計画機関の意思決定と企業への計画命令伝達。制度改革の官僚的制御と調整様式。外資導入・役割の重大化：ハンガリー・チェコ・ポーランド。国家的保護と経済的自由主義化との間の緊張。変革が全社会的な諸階級と利害関係・衝突での政治的妥協への展開、そして分配・利害関係の問題へ。人間主体の民主主義的発達を保証する社会経済的構造の理論化へ。労働一生産過程における「資本—労働」関係を離れてまで、なし得るのか。討論では、ここでレギュレーション理論について考察するのは、時代遅れではないか、この理論では現代を分析できず、また今ではこの理論を取り上げる意義はないでは。フォーディズムを取り上げているが、もっと多様性があり、ハンガリーに関する分析も必要だ。むしろ、ロシア・ウクライナのオルガタイヤーが問題だ。この理論で例えば鄧小平での資本主義化はどうか。この本の主題「民主主義」にこの章は適合しているのか。東欧変革は民主主義から論ずるべき。プーチンの下で市民社会は形成されたのか。ソ連からロシアになり経済はガタガタになったが、中国は経済発展した。以前は中ソ対立があったが、ロシアと米国との対立で中ソは仲良く。今の日本でのレギュレーション理論の評価は？ むしろ物象化論へ。市民社会論 対 アソシエーションか。出席は、小野さん、高島さん、川口さん、松村さん、斎藤さん(Zoom)、山口さん、竹内さん(Zoom)、後藤さん(Zoom)と高田の9名でした。

\* 9月29日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 838 1724 2970 パスコード: 801115

\* 10月12日ゼミは、芦田本の5章と6章も報告します。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

9月29日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』3巻46章 建設地帯・47章 創世記 報告 高田

10月12日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅱ部 5・6章 報告 川口さん

10月26日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』3巻7編48章 三位一体的定式 報告者未定

その後 11/9, 11/23, 12/14, 12/28 : アイクルの部屋

◇第三学科事務局/高田好章 : ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755  
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso